



プロバスだより

第315号

2022年2月10日発行

編集・発行 情報委員会

東京八王子プロバスクラブ

創立 1995年10月18日

2021～2022年度

プロバスライフを「元気に楽しもう」

第315回例会

日時 令和4年1月13日(木)

場所 八王子エルシィ

出席者 出席者36名 出席率73%

(会員総数51名、欠席13名、休会2名)

1. 開会 戸田弘文例会委員

2. 会長挨拶 河合会長

新年明けましておめでとうございます。

寒波の襲来とコロナ禍の中、元気に新年初例会へのご出席何よりと思います。

今年の新年も重苦しい雰囲気の中で迎えることになりました。

オミクロン株という大変感染力の強い、コロナウイルスの変種の出現・蔓延であります。

既に、第6の大きな波が始まっていると言われております。今年のプロバス活動にも、様々支障が生じるものと思われませんが、矢張り活動の基本は会員の皆様の健康が第一であります。

今後とも、安全第一・健康第一のプロバス活動に当たってまいりたいと思っております。新年もよろしくお願ひ申し上げ、ご挨拶といたします。

3. ハッピーコイン披露

池田副会長からハッピーコイン16件の披露がありました。(3～4ページに掲載)

4. パースデーカードの贈呈

1月生れの会員に池田会員手作りのパースデーカードが贈られました。



写真左から、下山会員、武田会員、河合会員、堀会員、土屋会員

5. 1月のラッキーチャンス

今月のラッキーチャンス当選者は五位堂会員、野口会員、山口会員の3名でした。

6. 幹事報告

山口幹事

皆様あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

さて、7月からの上半期も丁度6か月を経過いたしました。コロナ禍により8月、9月は例会が中止となったものの10月は久方振りのエルシィでの例会、11月は新たな企画による2年目の特別例会の開催等、12月まで順調に推移して来ました。

今月から下半期となる訳ですが、またまた変異株であるオミクロン株による爆発的な感染が報じられており、昨日の感染者数を見ても強い感染力に非常に危惧しているところであります。

どうか皆様におかれましても慎重かつ万全に対応しつつ後半の6か月に向けて活動いたしたく、また願ひたく思っています。

本日は簡単に2点触れたく思います。一つは誠に残念ながら止むを得ない事情(健康上の理由)と聞いておりますが、会員番号125番 根本洋子会員が12月末をもって退会したい旨の申し出がありました。休会扱いすることも願ひしましたが残念な結果となりました。これで活動会員49名、休会2名の51名の構成となりました。

次に上半期における予算の執行状況ですが前期会費収入に関し、会員全員から入金済、一方、支出においても各費目について特段の問題はなく順調な執行となっております。報告は以上です。

7. 委員会活動報告

(1) 地域奉仕委員会

馬場委員長

1. 配布資料(第26期生涯学習サロン受講希望テーマ選択表)をご覧ください。これは、会員の皆様に



サロンのコース選択をお願いするものです。本例会中に記入して頂き、退出時にテーブルに残しておいてください。地域奉仕委員会が回収します。

2. 2月例会時に例年通り「生涯学習サロン参加費・3,000円」の納付をお願いします。サロン運営の重要な運営資金です。

3. 本日の例会後に、地域奉仕委員会の岩島委員主催で「サロンの受付チーム編成」に関するミーティングを行います。あらかじめお願いしましたメンバーの参加をお願いします。

4. 昨日（1月12日）現在、サロン会員からの返信ハガキの到着状況は、参加32件・不参加34件・未回答137件と出足はかなり低調です。電話等による督促を検討中です。

（2）交流担当

一瀬 明

いよいよ「東京八王子 2022」開催の年を迎えました。本番の11月24日に向けて諸準備を積み重ね全国のプロビアンをお迎えすることになるわけですが、会員の皆様の絶大なるご協力を切にお願いする次第であります。新変異株の感染拡大が憂慮されますが、先日の実行委員会で開催までの大日程を再確認いたしました。節目は3つあります。

節目の第1は3月の各クラブへの開催通知の発送と参加人員の概数把握。第2は7月の正式な開催案内の通知と各クラブへのアンケート送付。第3は引き続きの参加登録および参加費の入金の確認であります。その間当クラブでは資料の作成、大会の諸準備に追われることとなります。各役割担当に当たられる方はもちろん全員参加の形で「八王子に来てよかった」と思っただけのよう、4年ぶりの全国大会を盛り上げてまいりたいと思います。そのため前提条件として全員が本大会に出席していただきたいことでもあります。もちろん現状の会員数の維持増強も必須であります。よろしくお願ひいたします。

8. 卓話

私の人生経験

五位堂 保

初めに五位堂姓の由来からお話します。

父親の出生は金沢市です。男三人、女五人の次男として生まれました。家業は「伝統加賀友禅の染色業」を営んでおりました。現在は父の兄（戦争で死亡）の子どもが跡を継いでおります。

五位堂という変わった名前ですが、奈良県香芝市に「五位堂村」が地名として残っております。区域内にはJR和歌山線（王子～和歌山）に「JR五位堂駅」が、近鉄大阪・山田線に「五位堂駅」があります。両駅の間は約1km離れております。



奈良県香芝市は明治時代から鑄造業が盛んなところでした。梵鐘や鉄の鳥居などが製作され、現存しております。一方、地場「五位堂銭」が発行されており、奈良県五位堂村で作成された大型銭として「日本貨幣カタログ（1998）に掲載されております。

金沢に移り住んだ経緯は不明ですが、当時の金沢の地は全国的に著名な鑄物の産地であることから、或いは鑄物技術に関連した移住かとも考えられます。

本題に戻ります。私は三菱銀行に勤めておりました。三菱銀行は、大正18年（1919）三菱合資会社から分離して誕生しました。当時の主要銀行は資金量上位から並べますと、三和銀行、住友銀行、安田銀行、第一銀行、三菱銀行、三井銀行、第百銀行の順でした。

昭和16年（19198）第二次世界大戦が勃発、国は国債発行増発の必要性から、国策として銀行合併を推進しました。その結果、第一銀行と三井銀行が合併し「帝国銀行」に、三菱銀行と第百銀行が合併し「三菱銀行」に銀行名を変更することとなりました。合併にあたり、融和を図るため、各銀行は行員宛にそれぞれ訓示をしておりました。参考までに紹介します。

合併に対する行員向け訓示（三菱銀行）

「すべて融和し、いやしくも優越感を持つことなく、第百銀行の行員を尊重し親愛なる情をもって接し、少しの区別のなきよう行員一同が接すること」

合併に対する行員向け訓示（第百銀行）

「三菱銀行は決して差別待遇はしないから心配するなど頭取から全行員に申し渡され、人の和を図り人心の安定に努めることを申し渡した」
合併の時期は昭和18年（1943）でした。

戦後の昭和23年（1948）に金融機関再建整備法が施行され、本店が千代田区内にあったことから「千代田銀行」に行名変更、次いで昭和28年7月「三菱

銀行」の銀行名に復帰しました。

私の銀行在籍期間は、昭和 28 年（1953）から昭和 63 年（1988）の 35 年間の国内勤務でした。

支店勤務中（昭和 28～55 年）日本経済は総じて右肩上がりの成長時期にあり、国内産業は常に資金需要が極めて旺盛でした。銀行・証券会社・保険会社など金融機関は貸付金の原資である資金集めに奔走、銀行でも預金獲得に明け暮れる毎日でした。

皆様方のご記憶にある通り預金金利は 1 年定期年 6%。2 年定期年 8%と夢のような高水準でした。又、銀行の外交活動は集金業務が大半で、工場新設に伴う不動産売買や退職金など大きなお金が動く情報が入ると「夜討ち朝駆け」で資金を追ったものでした。

一方、支店の店頭業務は記帳事務を手作業で行なう部分が多いため、その処理に追われ残業の連続でした。月末などは事務が集中しお客様の待ち時間も 20～30 分は当たり前となり、苦情が殺到する苦勞の連続でした。

昭和 40 年後半に入り、「事務センター」が新設され、行員の採用数の増加が実施されました。従来の採用校に加え、地方の商業高校の男女高卒者採用を実施、同時に預金事務のオンライン化と事務量の大幅削減化を推進した。特に「預金オンライン化」は、現在の「ATM機」の導入と増設により窓口や記帳事務の省力化に大変貢献しました。

現在の支店はATM機をお客様自身が操作して預金の受払、他店・他銀行への振込などを実施できるよう大きな変貌を遂げています。

次に本部での経験をお話しします。人事部の在籍は昭和 55 年から 63 年までの 8 年間でした。

(1) 採用関係

高校卒の男女社員の採用は昭和 58 年まで続きました。東北六県の指定校訪問を年 3 回、4 月・7 月・10 月に実施しました。東北の高校所在地は県内でも遠く離れており、電車を利用することはかなわずタクシーの利用が中心となり費用も嵩みました。

(2) 行員育成相談室

相談室の管理運営は 6 名で担当しておりました。独身寮は東京地区に 22 箇所、寮生数は約 1,200 人おります。寮生は 40 年後半に急増しております。

独身寮は寮生による自治運営となっており、寮長は寮生から選出、任命は人事部長。管理人は人事部

在籍としております。

行員育成相談室の役割

- ① 新入行員の定着化として、都会生活での順応。
- ② 寮生間、所属店で人間関係に不安はないか。
- ③ 職場内、特にシフト勤務者の生活状況、事務センター勤務者の 3 交替制、夜勤明けの生活状況。

これらの役割を果たすためグループで夜間巡回訪問し、個人面接を実施した。時には寮生と一緒に夕食をとり、9 時頃から懇談したこともあり、宿泊を伴うことも間々ありました。

在籍 35 年間、思い出多い、いろいろな経験をし、今となればすべて「楽しい」人生経験をしたと思っております。ご静聴有難うございました。

9. お年玉プレゼント会

コロナウイルスの関係で新年会が開催出来ませんので、抽選で全員が受け取れるプレゼント会を実施しました。

10. プロバス賛歌斉唱

起立・黙唱

11. 閉会挨拶

乾杯は残念ながら出来ませんでしたが、久しぶりに落ち着いた食事をしていい新年会になりました。五位堂さんの卓話も興味深い話題で楽しく聞かせていただきました。

2 月も元気で皆さんと一緒にできますように。

池田副会長



ハッピーコイン

◆明けましておめでとうございます。今年は旅に出られることを願っています。野口 浩平

◆年があらたまりました。今年は八王子大会の年です。コロナに邪魔されず 4 年振りの大会を意義あるものにしたいと思います。会員の皆様の絶大なるご協力をお願いいたします。一瀬 明

◆本日の例会は新年会、例年のようには華やかには出来ませんがお互いに顔を合わせられる幸せを再確認したいと思います。一瀬 明

◆今月から下半期に入りました。オミクロン禍にも負けず何とか乗り切りたいものです。本年もよろし

くお願いします。

山口 三郎

◆86歳です。ともかく大きな事故もなく生きて来た。今後もこのまま行ければOKでしょう。

下山 邦夫

◆ドイツヴリーツェン市は、戦後感染症治療の為に貢献した八王子出身の肥沼博士を記念して、市役所から墓地までの400mの道路を「肥沼通り」とすることに決定しました。「Dr. 肥沼の偉業を後世に伝える会」は、その道の西側を桜並木とすべく植樹計画し、これから募金活動を行ないます。その折は、皆様方のご協力をお願い致します。 岩島 寛

◆皆様、本年もよろしく申し上げます。神様、仏様、「生涯学習サロン」を完遂させて下さい！！

馬場 征彦

◆孫娘が成人式を迎えました。感慨深いものがあります。ハッピーです。

飯田富美子

◆新年あけましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。2022年の全国大会のホストクラブとして全員参加で頑張りましょう。新型コロナウイルスの沈静化を祈りつつ…。 飯田富美子

◆新年明けましておめでとうございます。今年も元気にプロバスライフを楽しみましょう。

河合 和郎

◆憎っくきコロナがどうぞ早く退散して、又、活発な日常活動が戻ってくることを心からお祈りして。

田中 信昭

◆今年もよろしく申し上げます。欠席が多くてすみません。

戸田 弘文

◆新年おめでとうございます。よろしく申し上げます。今年こそコロナの終息を願いたいですね。

有泉 裕子

◆正月は喪中とコロナが重なり、初詣もできず、家ごもりでした。先日、検診人間ドッグにて結果報告書には沢山の※がありました。まるでおみくじで凶を引いたようでした。それにもかかわらず今年もハッピーになるよう頑張ります！ 持田 律三

◆私は長いことコロナで休ませて戴きました。久しぶりで参加し、色々なことを新しく感じています。

濱野 幸雄

◆いよいよ第6波の到来でしょうか。いくら重症化しないとはいえ、お互いに感染予防に努め、通常な暮らしが得られるよう祈りましょう。 内山 雅之

俳句同好会便り

私の一句〈一月の句会から〉

河合 和郎

一堂に会しての俳句会は矢張りいいものだ。雰囲気がいい、みんなの笑顔がいい。辛口の鑑賞がまたいい。とにかく楽しいひと時なのである。

去年卒寿百歳とてもいやなんの 東山 榮

作者は昨年卒寿を迎えた。九十九歳を白寿と呼ぶ。是非、去年「白寿」の句を詠んで欲しいもの。

炉話も怒濤に途切れ隠岐の浦 矢島 一雄

炉話とは囲炉裏を囲んでの団欒のこと。荒れる隠岐の冬の海。その激しさを「声が途切れる」と詠む。

ふっくらとあたたかそうな雪が降る 池田ときえ

ふんわりとした雪の様子を「あたたかそうな」と逆転の措辞が見事。繊細な感性が生んだ一句。

梯子乗ってぺんからの逆さ富士 田中 信昭

出初式の一景。最大の見せ場は梯子乗りの妙技。乗り手の視線から詠んだ着想が素晴らしい。

北風強し青空に消ゆちぎれ雲 下山 邦夫

北風（きた）とは身を切られるような寒さの冬の季節風のこと。澄んだ青空に千切れ雲が走る。

厳冬の富士に向かひて手を合はす 飯田富美子

荘厳な富士の姿に思わず手を合わせた。威厳と優美さを備えた富士はやはり霊峰なのである。

八度目を迎へし干支や初日の出 馬場 征彦

八十四歳を迎えた長寿の作者。おめでたい初春の一句。もう一回りで九十六歳。まだまだいける。

友からのビデオレターは雪五尺 野口 浩平

今年の北国は大雪に何度も見舞われている。その北国の友からの便りには五尺もの雪景色が。

凍蝶や吹かるるままにそのままに 河合 和郎

もう死んでいるのだろうか。鮮やかな翅の色を残す冬の蝶は風に吹かれるままに揺れている。

編集後記

新型コロナウイルスの感染が急拡大しています。皆さん、なお一層のご注意を！

紙面構成が狭苦しく見づらいものとなりました。ご容赦ください。 内山雅之

